

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社 緑 苑		
事業所名	グループホーム メープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170番地2 電話 0133-72-1129		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成 20年3月27日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(平成19年12月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月10日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算12.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	～1・2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	無		(冬季暖房費6,000円)
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月 27日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	5名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.1歳	最低 72歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ファミリークリニック、ばらと病院、高台病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの一番の特徴は、ゆったりとした生活環境が守られていることを実感できることです。介護理念に「決められた規則はありません」と謳われており、利用者が自己のペースで暮らしを楽しんでいます。事務室には、ガラス張りで隔離された喫煙室があり、タバコ好きな利用者が度々使用しています。また、事務室内のトイレには利用者も駆け込むといった光景、「ちょっと二階まで・・・」とで掛ける利用者など、ホームの内には「心のふれあい」、それを支援しているスタッフとの調和が良くできています。家族の訪問頻度も高く、家族との良好な関係が築かれており、利用者の重度化などに備えて宿泊できる予備室も備えられています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題である「緊急時の実践的な対応」及び「外部研修への計画的な参加」は何れも取り組みが行なわれて、改善がされています。管理者はグループホーム協議会などを利用したネットワーク作りの中で、内容豊かな研修及び同業者のホームの相互訪問を通じたサービスの質の向上を検討しています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 時間的な余裕のなさで、自己評価は十分な成果で仕上がってはいません。全てのスタッフがこの自己評価作成に加担し問題意識を共有しなければなりません。今後の外部評価とともに自己評価を改めて見直す取り組みが望まれます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) これまでの会議の内容を見ますと、本来の運営推進会議が十分に機能されず、マンネリ化も視えます。ホームの現況や行事の予定などの周知に加えて、自己評価や外部評価で明らかになった課題への取り組みなどを公表しながら、協議しアドバイスを頂くなどのサービスの質の向上に向けた会議の推進を期待します。また、多角的な意見の聴取に資するためメンバーを固定化せず流動かつ拡大した構成での取り組みが望まれます。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族がホームを訪問する頻度は高く、最低でも月に1度は家族との話し合いの機会があり、管理者を始めスタッフは、家族との話し合いの貴重な時間を大切に、より良い関係作りをしようと努めています。家族が抱く不安や苦情は時間をおかず解消するように運営者、管理者、スタッフが協働してあたることにしています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し集会や祭りなど行事にできるだけ参加しています。また、近くの小学校の野球部の応援と児童との交流があります。運営者は降雪時にはホームのショベルカーを利用して近隣住宅の除雪を行なうなど地域との連携に努めていますが、これからは利用者自身が地域の暮らしに中で、どのような活動や連帯意識が持てるかを模索しつつ実践されるよう取り組みが期待されます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、重要事項説明書の中で「地域における馴染みの暮らしへの継続」が謳われていますが、ケア理念の中では利用者及び家族、スタッフにとって理解しやすいものになっているものの、地域の中で暮らしを支えるサービスの字句が不足しており、現在、事業所独自の理念の改良をスタッフ間で検討中です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」の理念を、毎朝の申し送り及び夕刻の引継ぎ時にはスタッフ間で復唱をしながら、理念の実践に向けた取り組みが行なわれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して祭りなどのお付き合いのほか、運営者が社有のショベルカーでご近所の除雪を行ない感謝されています。また、近くの小学校の野球チームの応援や時折ホームへ遊びに来てくれるなど交流がありますが、利用者も参加できる地域活動への積極性に不足感を覚えます。	○	利用者の地域でのつながりを多くして暮らしてゆくことが求められており、どのような方法が地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割、例えば歩行者道路の定期清掃や近くの公園清掃、草取りなどを担って行けるかの取り組みが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題となった、緊急時の対応及びスタッフのスキルアップを目的とした外部研修については、両者とも改善されております。ただ、今回の自己評価作成については、時間的な余裕もないことから、スタッフ全員の参加による成果とはなっていません。また、自己評価が問うている内容も十分な理解ができていません。	○	自己評価は、日々のサービスの向上に欠かせない内容となっており、スタッフ全員が各項目について省みる必要があります。また、各ユニットごとで作られるので、記述が変わることも当然です。今後は時間的な余裕も十分に取らながら、全員が参加した自己評価の作成と外部評価への取り組みが期待されます。

石狩市 グループホーム メープル

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催は2ヵ月置きに開催されていますが、ホームの状況報告と予定など提出議題の内容に変化がなく、マンネリ化が視えます。また、固定化されたメンバーでの会議内容に流動性の不足感を覚えます。	○	運営推進会議の設置理由をスタッフ全員が理解しなければなりません。ホームの現況を知ってもらうこと必要ですが、ホームとしてサービスの質の向上を図る目的で良き協力者となって頂くため、評価結果への取り組みなどを報告し、一緒に検討して頂く、また、より多くの意見を頂くため、メンバーを柔軟に拡大するなどの取り組みが望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に2回程度、市の担当者が訪問して頂き指導を受けているほか、判らないことがあれば頻繁に出向き、また電話などで問い合わせをして連携を密にしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、毎月の金銭管理の報告やホーム生活を紹介する「メープル便り」とともに個人宛の手書きの「お便り」を郵送するなど、家族との温もりを大切にしています。必要時には電話で適切かつ迅速な情報を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年1回の開催で、前庭での焼肉パーティーは利用者、家族、そしてスタッフが触れ合う、また、忌憚のない意見を伺うことのできる大切な機会となっています。運営者、管理者及びスタッフは、意見や要望をホーム運営に反映させ、サービスの質の向上に役立てています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近スタッフの退職などによる異動がありませんが、ユニット間の異動は行なわれています。ホームでは利用者への担当制を取らないで、全ての利用者と等しく支援を受けれるようにしています。また、利用者は自由にユニット間を行き来していますが、いつも馴染みのスタッフがおり、安心感に満ちた暮らしが継続されています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成16年の開設当時は、スタッフの定着に苦労をしましたが、現在は非常に良い人材に恵まれ定着が見られます。初任者には1年間同じユニットでの内部研修が続きますが、それ以降はサービスの向上に向けたほかの事業所への研修や専門分野など外部の研修も適時出席をして、スキルアップに努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当初は近隣の同業者が見学の訪問がありましたが、最近は途絶えています。また、こちらからほかのグループホーム訪問も行なわれていません。	○	同業者間で相互の訪問は、スタッフにとって、普段気付かないサービスの提供に役立つことが多いものです。グループホーム協議会などのネットワーク作りから始めなくてはなりませんが、サービスの質の向上への飽くなき追求のため取り組みが望まれます。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みがあった際には、事前に家庭訪問はしていませんが、本人と家族がホーム見学をして頂き、昼食やお茶を一緒にするなど、安心して利用ができるよう配慮されています。またほかの利用者も気さくに声掛けをするなど、早く馴染めるように協力をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夜勤のスタッフには、利用者から労いの言葉を頂いたり、先輩たる利用者から学ばせてもらうことを大切にするなど、お互いに支えあう関係作りをしながら、喜怒哀楽をともにし少しでも豊かな暮らしへの支援を心掛けています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「過剰な介護は必要ない、避けるべき」との管理者のポリシーはスタッフの全てが共有しています。一人でふらっと外出の利用者にも、単に止めるのではなく、スタッフが距離を置いて付いて行くなど、利用者の意向や思いを大切にした支援が続けられています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を一部使用しています。家族の意見を聞きながらスタッフのアイデアなどが持ち寄られ、カンファレンスで検討されており、アセスメントを大切にしています。このホームでは介護支援専門員が看護師の資格を有しており、専門的なアドバイスは勿論、計画に対する評価も適切に行なわれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に対する通常の見直しは3ヵ月ごとに行なわれており、利用者、家族の理解を得ています。利用者の状態急変や医師の指示による現状に即した随時の見直しもされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊できる予備室も備わっており、重度化した場合の対応、また、入院に際しては早期退院への支援、本人や家族の状況により通院送迎や美容院への送迎など、多機能性を活かした支援が行なわれています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、ホームの協力医療機関を利用するほか、掛り付け医の利用もしています。定期的な在宅総合診療のほか、月2回のホーム往診があり、受診支援が行なわれています。ホームの介護支援専門員は、看護師としての掛り付け医との連携、日常の健康管理や医療支援が的確に行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際には「急性期及び重度化と看取りに関する確認同意書」が取り交わされており、家族の方と良く話し合いが行なわれています。掛り付け医等とも機会あるごとに話し合いが持たれています。ホームには家族のための予備室が設置されており、重度化した際、また看取りなどにも利用するようになっています。スタッフも十分な理解ができており共有しています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者及び家族に対しては、入居の際に個人情報の利用について説明をして同意書を得ています。面会帳を使用せず訪問者は管理日誌に記録し、また、写真等はアルバムに収録するなど、プライバシーの確保に細心の注意がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の行動については、ホームとして大まかな一日の流れはあるものの、「決められた規則はない」と介護理念で謳われているとおり、利用者一人ひとりのペースを大切にした暮らしの支援が行なわれています。食後の歯磨きに集う井戸端会議にも似た楽しい会話が聞こえます。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂の円形テーブルは、懐かしい卓袱台を思い起こさせ、利用者と間に座るスタッフの表情が等しく交差して和やかな食事となっています。誕生会などには利用者の希望も取り入れた献立が作られています。食事は彩り、味付けも良く、利用者の殆んどは残さずに食べています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは、週3回の入浴日を設定して利用者の体調を考慮しながら生活習慣や希望を聞き、できるだけ入浴されるよう勧めて支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には、できることをして頂いていますが、掃除、洗濯物たたみ、後片付け、配膳など、殆んどの利用者は習慣としての役割をこなしています。また、外出ではコンビニやスーパーでの買物を楽しんでいます。夏季には菜園作業で色々な野菜を収穫して張り合いと達成感への支援が行なわれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた暖かな陽射しのもと、日常的な散歩で少しでも外の空気に触れて気晴らしになるよう支援しています。一人でふらっと外出する利用者には、スタッフは気付かれないよう後ろからついて行き、頃合を見計らって一緒に帰るなど配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関の鍵は掛けていません。1～2階のユニットも開放されており、全てのスタッフが連携を取りつつ利用者が自由な生活ができるよう支援がされています。		

石狩市 グループホーム メープル

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で、火災を想定した避難訓練が年1～2回実施されているほか、少年野球チームの父兄も協力して頂いていますが、消防署員の指導による避難訓練及び夜間を想定した避難訓練は実施されておらず不安が残ります。	○	地域の方々の協力体制も徐々にできつつありますが、さらに協力の輪を広げる努力と、消防署へ依頼しての実地避難訓練や、スタッフの少ない夜間を想定した避難訓練の取り組みが望まれます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は、毎日にチェック表で管理されています。食事についてはおおよそ1400～1500カロリーを目標として献立がされていますが、彩りや味付けには特に気を付け食欲が増進するよう配慮し、時々、栄養士の指導も得て偏りなどがないかチェックをしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、何れも落ち着いた、しかも家庭的な雰囲気が静かに漂っています。食堂のテーブルは円形で昔の卓袱台を連想させるもので利用者のコミュニケーションに貢献しています。また、運営者は居間と食堂をもっと余裕あるものにと増築を考慮中で、陽光が豊かな心地よい共用空間作りへの継続した配慮がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、持ち込まれた家具類が沢山並べられています。読書や筆記用の机、椅子、趣味の作品を飾っている茶箆笥など、利用者一人ひとりの生活歴が滲む家具類を見ることができます。そのような居室で利用者はゆったりとした安心の暮らしの継続がされています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。